

事業報告書

団体名：京都・丹波/亀岡市民まちづくり風の会

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	寺小屋プロジェクト
3. 実施場所	亀岡市内の寺院
4. 実施期間	平成28年5月25日 ~ 平成29年3月24日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、情報など)

寺小屋カフェ

<第1回寺小屋カフェ>

テーマ：『電力の選び方講座』～節電所の時代がやってきた～

日時：平成29年6月25日(土) 13:30～16:30

場所：法華寺

講師：^{ほく 勝利さん} 朴 勝利さん (関西学院大学総合政策学部教授)

参加者数： 17名

内容：(詳しくは、添付資料：「まちづくり亀岡かわら版」参照)

電力自由化の仕組みと、自由化で何が変わるかなど、外国の例など多方面から話を聞く。私たちが環境負荷の少ない良質な電源を選ぶことが、再生可能エネルギーの活用につながり、その発展に寄与すること。また、節電の努力をたくさんの方がすることで、巨大発電所に匹敵する価値があるといった、私たちがすぐに実践できる例をはじめ、商店街で電力消費量を減らした市民共同節電所の取り組みなど、「節電所」という考えについても、実践例を聞き、持続可能なエネルギーについて意見交換をした。



<第2回寺小屋カフェ>

テーマ：『空き家で街（まち）んぐ講座』～広島・尾道空き家再生プロジェクトの事例に学ぶ～

日時：平成29年9月6日（土）13:30～16:30

場所：好堅寺

講師：豊田 雅子さん（NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト代表）

参加者数：23名

内容：（詳しくは、添付資料：「まちづくり亀岡かわら版」参照）

広島県尾道での空き家再生プロジェクトの取り組みの具体的な事例を聞き、これからの亀岡での「空き家再生」について、一緒に考える機会とした。亀岡市もこれから空き家バンク立ち上げるとのことで、ふるさと創生課の職員さんも参加された。参加者から様々な空き家の活用アイデアが出された。



<第3回寺小屋カフェ>

テーマ：『楽しく始める、生前整理』～高齢化社会を考える～

日時：平成29年10月26日（水）13:30～16:30

場所：嶺樹院

講師：古田 ゆかりさん（生前整理アドバイザー）

参加者数：20名

内容：（詳しくは、添付資料：「まちづくり亀岡かわら版」参照）

高齢化社会を迎え、それぞれの老後の迎え方が問われる今日、楽しく充実した毎日を生きることを前提とした生前整理のあり方を学んだ。今まで歩んできた人生を振り返りながら「心・物・情報」を整理する方法をいろいろアドバイス頂いたあと、おひとり様のための亀岡市のサービスなどについて話を深めた。



<第4回寺カフェ>

テーマ：『ミツバチ再生計画』～森づくり、まちづくり～人とミツバチにやさしい農業の未来を考える

日時：平成29年11月27日（日）13:30～16:30

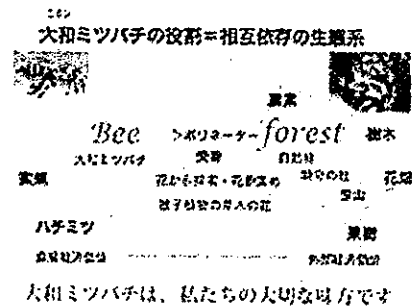
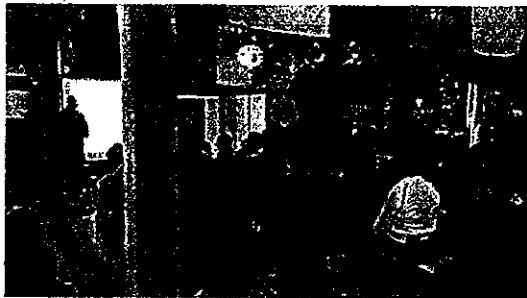
場所：真福寺

講師：吉川 浩さん（大和ミツバチ研究所所長、ビーフォレスト・クラブ会長）

参加者数：21名

内容：（詳しくは、添付資料：「まちづくり亀岡かわら版」参照）

ニホンミツバチによる自然林の再生に取り組んでおられる吉川さんのお話を聞いた。森の中に巣箱を置き、ニホンミツバチを増やすことで、樹木の花の受粉を助け森を豊かにする。ミツバチと自然と人は共に繋がって生きている。蜂蜜を採るための養蜂ではなく、森を豊かにするためのビーフォレストの取り組みから、私たちが生態系の一部として、貢献できることを学んだ。



<第5回寺カフェ>

テーマ：『幸せな子育てでしあわせなまち』～アドラー流・子育て指南～

日時：平成29年2月25日（土）13:30～16:30

場所：龍潭寺

講師：井上 知子さん（臨床心理士）

参加者数：20名

内容：（詳しくは、添付資料：「まちづくり亀岡かわら版」参照）

アドラー心理学に基づいた子どもとの関係のあり方など、ロールプレイを交えながらわかりやすくお話頂いた。子育ての目標はうまく「離す」こと。赤ちゃんの時から子どもには意志があり、生きようとする力がある。子どもが自分で育つ力を認めることが大事。支配するのではなく、寄り添う言葉を。日常生活にも活かせる具体的なお話で、講演後の座談会も意義あるものになった。



その他

4月～2017年3月まで隔月1回/ 寺小屋カフェのためのミーティング、資料製作、準備

9月23日・12月7日・2月8日/ 「デスマス・カフェ」(法華寺)

12月24日/「お寺でワンデイレッスンそば打ち！」(真福寺)

10月3日・12月17日/「空家談義」(本町カフェ・心凜愛荘)

8月、10月、11月、2月、3月/「まちづくり亀岡かわら版」寺小屋カフェレポート 発行

3月24日/ 報告書製作・発送

6. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

- 1) 地域課題の解決やまちづくりを、共に学び合える場の創出により、自身の住むまちづくりに関心を持つ人の掘り起こし、解決策をともに考える市民を増やす。
 - ・テーマによって参加者の年齢層が違い、それぞれに関心を持った市民が集まり、講座を機会に、ネットワークが広がった実感はあるが、まちづくりのエネルギーとして大きなものになったとは言えない。これからじっくり対策を考えていきたい。
- 2) 寺院が多いという亀岡の特色を活かして、寺院を「学び舎」として、地域活性化の基点に。
 - ・どちらの寺院も、寺小屋カフェの趣旨をご理解下さって、多大なご協力を頂いた。
 - ・実際に寺院をお借りして講座を開いてみて、学び舎としての環境が素晴らしいと思った。
 - ・寺院のある地域の方への参加の働きかけができなかったにも関わらず、ご住職や寺総代さんがお声かけして下さったお陰で、地域の方の参加もあった。
 - ・ご住職がおられないお寺も市内には多いが、地域の方がお世話されて、こどもたちの合宿に提供している寺院もあり、寺院の本来のあり方を見たように思った。
 - ・仏様のおられる場を使用させていただくことには、参加者の意識に開きがあり、課題として残った。
- 3) 行政との連携
 - ・まちづくり協働支援金を頂いたことで、いろいろなテーマで講師を迎えられ、多くの市民のみなさんと課題解決に向けて意見交換ができたことは、ありがたい事だった。
 - ・第2回「空き家で街(まっち)んぐ」には、ふるさと創生課からも参加され、意見交換と一緒に加わって頂いて、連携の足がかりができたのではないかな。
 - ・事前にテーマに合った亀岡市の担当者への働きかけを、もっと積極的にすべきだった。

7. 協働の効果	事業実施にあたって、他団体等と協働で実施された場合は、実施の効果や今後に向けての課題について、具体例などを交えながら具体的に記入してください。 ※市民連携事業に関わらず、他団体との協働があった場合は記入してください。
----------	---

2つの団体にご協力いただいた。

◆国境なき僧侶団・・・会場としての寺院の場所手配、アドバイスなど。

◆くらしを見つめる会・・・参加者募集。会報「くらしを見つめる会つうしん」への掲載。

8. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

<まちづくりへの提言と情報発信、そして移住促進へ>

・地域の人たちと、参加者がよい関係を作りながら気軽に学習し、語り合い、その内容を、講座ごとに「まちづくり亀岡・かわら版」(添付資料参照)という形にまとめ、広く参加者以外の方にも知っていただくことができた。

・5回の講座で見えてきたものを、具体的に実行し、まちづくりに生かしていけたらと思う。
例えば、第2回「街(まち)んぐ講座」をきっかけに、空家談義として、市内の古民家を活用したスペースで2回情報交換の場を持った。このように、講座の内容を更に深めたり発展させたり、実践する取り組みを継続していきたい。来年度は具体的に何ができるかをゆっくり考えたい。

・歴史や文化、人と人とのつながりを大事にしながら、亀岡を今よりも魅力ある「住みたいまち」にして、外からの移住希望者も多く受け入れられるようなまちに発展させられたらと思う。それには私たち自身が更なる研鑽を積まなければならない。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

寺子屋
カフェ

tera-cafe

「空き家で、街(まち)んぐ講座」

～広島・尾道空き家再生プロジェクトの事例に学ぶ～

日時：9月6日(火) 13:30～

場所：好堅寺 (亀岡市東別院町小泉大道60) 駐車場あり

日本の大きな社会問題になっている空き家問題。亀岡市でも自分たちの住む地域周辺に、空き家が目立つようになってきました。今回は、広島・尾道で、豊田さんが、自分自身の尾道移住や空き家再生の経験をもとに、子育てをしながら「空き家の再生」に取り組んでこられた事例を参加者みなさんで共有し、これからの亀岡での「空き家再生」について、一緒に考える機会を持てたらと考えています。

講師：豊田 雅子さん

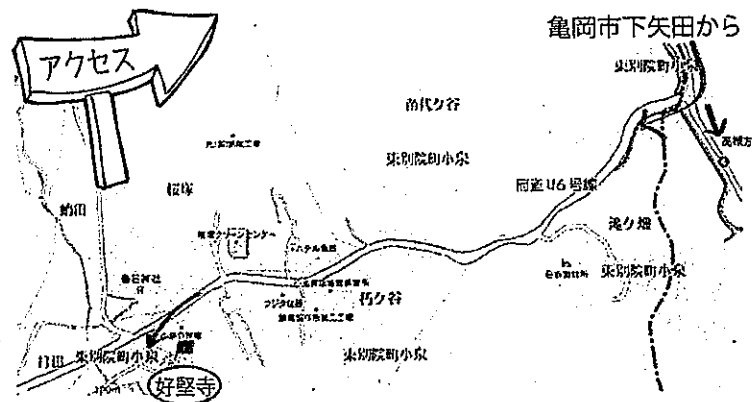
(NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト代表)

<http://www.onomichisaisei.com/>

<https://www.facebook.com/onomichisaisei>

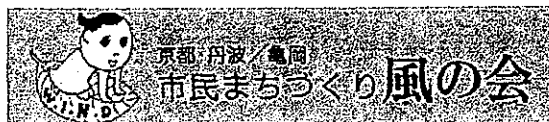
対象：空き家を探している方、借りたい方
空き家を貸したい方、
空き家を再生している方、再生した方
行政や、NPO 担当者、
まちづくりや建築に関心のある方など

参加：500円 (お茶・資料)



<好堅寺さんまでのアクセス>
※車で、矢田口交差点から約10分

「寺子屋カフェ」とは、亀岡の地域課題を考える学び舎として、亀岡に多くあるお寺を活用させていただき、市民のみなさんと共に学ぶ場づくり、まちづくりを、考えていく場です。寺子屋カフェの第1回は「電力の選び方講座」を行いました。今後は「高齢化社会と地域の役割」、「無農薬・自然農法を考える」など、継続的に開催していく予定です。どうぞ気軽にご参加下さい。



【連絡・お問い合わせ】〒621-0815 京都府亀岡市古世町 3-16-8-306

TEL: 080-9164-7051 <http://e-kazenokai.net/>

<連携グループ> 国境なき僧侶団・くらしを見つめる会

第2回寺子屋カフェ @好堅寺 九月六日
「空き家で街んぐ講座」
尾道空き家再生プロジェクトの事例に学ぶ
講師：豊田雅子さん

今回の寺子屋カフェは東別院町小泉の静かな集落にある好堅寺さんで開催しました。広島・尾道で空き家再生に取り組みで来られた豊田雅子さんをお迎えし、お話を聞きました。

◆ヨーロッパの古い街並み

90年代の終わり、海外旅行の添乗員をしていた頃、ヨーロッパの古い街をたくさん訪ねたことが今の活動に強く影響している。地産地消の石材を使って街が造られているので、それぞれの街が違った色、味わいを持っている。特別な観光スポットがなくても普通の暮らしから生まれる街並み自体が観光資源。人々が自分のまちに誇りを持ち大事にしている。

◆尾道の街並みは共有の財産

一方、生まれ育った尾道は、一昔前の路地や坂の街の風景というのが魅力なのにそれが負の遺産みたいな状況に追い込まれ、空き家も増えていた。古い家の維持管理ができない持ち主さんだけの責任にするのではなく、共有財産として、みんなで考えなきゃいけない問題なのではと思った。

◆ガウディハウスとの出会い

当時、街の経済の中心エリアに、50軒くらい空き家があるという状況。一軒直して活用出来たらと大阪在住の間に6年間空き家探しをする中で、地元の方や、市役所、移り住んでいる若い方とのネットワークが構築された。その後尾道に帰り、小さな空き家に出会い買い取った。昭和初期にひとりの職人さんが三年がかりで建てたもの。外観の面白さからガウディハウスと呼ばれていた。

◆NPO尾道空き家再生プロジェクトの立ち上げ
この家を買ったときのいきさつや尾道の空き家事情、ヨーロッパの街のことなどをブログでアップしたら大変反響があった。空き家がたくさんあって、ニーズもこんなにあるのでマッチングさえすればなんとかなると思った。空き家は傷みが早いので、スピードが大事。個人よりも団体として活動し、古いものを生かしたまちづくりが尾道のスタイルとして定着するよう、07年に尾道空き家再生プロジェクトを立ちあげた。現在180名程。

◆コンセプトは、ひろくゆるく

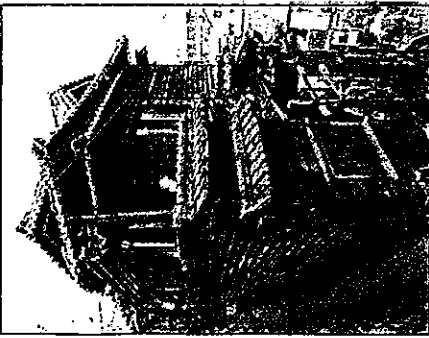
- ・コミュニティを大事にする。
- ・気候風土に合った地産地消の材料で作った家を受け継いでいく。
- ・使えるものは使いながら大事にする。
- ・アートの視点を大切に。視点を変えればボロボロの空家でも活用法が。
- ・空家を使って観光客も活用できる場所を作り、交流人口を増やす。

◆空き家再生の過程

まずはボランティアでゴミ出し。まだ使えるものは蚤の市をして、リユース。その後、建築士、大工さんに構造を見てもらう。建築塾を開き、職人さんの指導で壁塗り、床張り、タイル貼りなど。仕上げは若いアーティストに。と、いった風に、たくさんの人に関わってもらう。民家や、アパート、洋品店や、文化財級の建物も再生し、住居、工房、店、ゲストハウスに。

◆空き家バンク

尾道市がやっていたのをNPOも一緒にする事で新しくリニューアルし、大家さんと移住希望者さんをマッチング。空き家めぐりツアーや、相談会も開催。サポートメニューも。



通称 尾道ガウディハウス
尾道空き家再生プロジェクトHPより



お茶を飲みながら、意見交換

空き家の再生

亀岡のまちづくりを

豊田さんのお話の後、意見交換をしました。

古民家を改装して亀岡に移住して来られた方、空き家改築専門の業者の方、自宅の空き室を活用してゲストハウスを始めた方など、様々な体験談をお話頂きました。また、古民家で家族葬をするなど、これからの空き家活用の可能性を語り合ったり、豊田さんを交えて空き家談義に花が咲きました。

亀岡の農村部には大きな農家と田畑が残され、旧市街には歴史ある町家が、また、かつての新興住宅地にも空き家が目立ちます。地域によってその活用法も異なり、多様に考えられると思います。亀岡市のふるさと創生課も空き家バンクを作る準備をされています。

今回の会場の好堅寺さんには大変お世話になりました。

この講座をきっかけに今後も「空き家談義」を続け、亀岡のまちづくりを考えていきたいと思っています。みなさんのご参加お待ちしております。今後の予定は風の会にお問い合わせ下さい。

私たち「風の会」は

亀岡に眠っている資源を掘り起こし、亀岡ならではの個性豊かなまちを築いていくために、知恵を絞って、力を合わせて、賑やかな風を起こしていきたいと思えます。

TEL 080-9164-7051

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人みんなのネットワーク

1. メニュー名	(1) スタート事業 ○ (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	市民活動推進フォーラム等の実施
3. 実施場所	亀岡市市民ホール、ガレリアかめおか（市民活動推進センター、和室研修室）
4. 実施期間	平成 28年 4月 1日 ～ 平成 29年 2月 17日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。（実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、情報など）

●市民活動のすそ野を広げるために、平成28年10月15日「協働」をテーマに市民活動推進フォーラムを亀岡市市民ホールにて開催しました。

講師に同志社大学大学院教授・新川達郎様をお迎えし、基調講演「協働が進める市民活動」を開講した後、京都学園大学名誉教授・坂本信雄様の指導でワークショップを実施しました。

今回初めて参加者をグループ分けして市民団体2グループ、市民、市議団、学生、行政、中間支援の7グループに60人がそれぞれの弱み、強みなどをベースにして、今後の協働について話し合いました。各グループからは現状把握と将来へのビジョンについて活発な報告がありました。

市民グループからは情報交換の基盤づくり、協働の出来ること・して欲しいことの情報提供など。市議団グループからはわがまちトーク、橋渡し、行政のチェック機能など。学生グループからは情報の収集能力、発信機能と交流の場づくり。行政グループからは情報交換・研修会開催、公共業務の検討。中間支援グループからは中間支援の価値・能力を為の研修・企画力の向上、企画段階から目標の共有化など。各グループから積極的な発表がありましたが、講師からは今出来ることはなるべく早く具現化していくことがポイントであるなどのアドバイスがありました。





フォーラムの様子

●第1回 NPO 基礎講座は「NPO×ソーシャルビジネス」と題して、平成28年4月23日(土)午後1時半から、ガレリアかめおか2階和室研修室で開催しました。

講師は、「カッパ研究会」の鈴木康久さん、「ひとつのおさら」の西村和代さん、そしてコーディネーターは坂本信雄京都学園大学名誉教授でした。

初めに、3人からテーマに関して、各々プレゼンテーションがあり、その後、対談に移りました。さらに、出席者(約20名)を交えて質疑応答、そして意見交換を午後4時まで熱心に行いました。



NPO 基礎講座の様子

●市民交流会の開催

一般市民を対象にした、市民活動に関する交流会を年間7回、以下の日程で行いました。

2016年5月14日(土) 第1回市民活動実践講座(オフィスコンジュント) 参加者18名

2016年6月11日(土) 第1回実務講座(NPO法人の会計) 参加者8名

2016年7月2日(土) 第2回市民活動実践講座(介護相談リンクす) 参加者13名

2016年9月10日(土) 第3回市民活動実践講座(NPO法人ナルク亀岡) 参加者16名

2016年10月29日(土) 第2回実務講座(パソコン講座) 参加者10名

2016年11月5日(土) 第4回市民活動実践講座(99YEARS) 参加者15名

2017年1月14日(土) 第3回実務講座(チラシ講座) 参加者20名

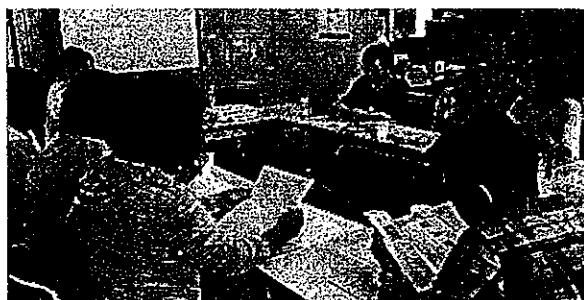
いずれも、ガレリアかめおかセンター第4会議室にて、講座のあと、15:00~16:00

松尾清嗣がコーディネーターを務めながら、和気あいあいと交流会を実施しました。

合計7回、100名もの市民が集まっていたいただき、市民活動への理解を深めていただきました。

2017年2月11日(土) 第5回市民活動実践講座(NPO法人プロジェクト保津川)

⇒当初の開催時間より変更となったため、交流会は中止しました。



交流会の様子

6. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

フォーラムやワークショップ、交流会の参加者数が180名を超え、ガレリアかめおか3階の市民活動のための窓口である「かめおか市民活動推進センター」の認知度が格段に上がったと実感することができました。同時に「協働」に対する理解も深まり、立ち位置の違う組織体(市民活動団体、行政、大学、市議団、中間支援団体等)が今後連携が促進されそうな期待が持てました。また、特に、交流会では「まちづくり」に関わってみようという市民が多く集まり、実際に愛媛県から亀岡の古民家に移住された方の相談にアドバイスした結果、リフォームしたのち、市民活動団体とのコラボ事業が始まったと聞いています。

7. 協働の効果	事業実施にあたって、他団体等と協働で実施された場合は、実施の効果や今後に向けての課題について、具体例などを交えながら具体的に記入してください。 ※市民連携事業に関わらず、他団体との協働があった場合は記入してください。
----------	---

参加者数は180名（フォーラム60、トークセッション20、交流会100）ですが、いろいろな立場の方が参加されたと実感しております。特にフォーラムでは協働の意識付け、交流会では市民活動の楽しさが伝えられたと自負しております。特に、交流会で、古民家再生のお手伝いできたことが何より嬉しく思います。

8. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

●資金の獲得について

財政状況の厳しい中、亀岡市の委託金額の範囲内で、より効率的な事業運営をめざします。

●事業の継続展開について

- ①この事業を含めた中間支援的事業の継続、強化は、亀岡市(市長)のチャレンジビジョンにも掲げられており、今後ともNPO団体との「協働」は必然だと考えます。次年度は「市民団体の元気アップによるふれあいのまちづくり」をテーマに展開していきたいと考えております。
- ②「市民活動推進フォーラム」は、かめおか市民活動推進センターの根幹的事業として認識されるよう、引き続き努力していくつもりである。参加者の範囲を若年者も含め、より広げていきたいと考えております。
- ③交流会については、「NPOゲーム」等を通じて、各団体のレベルアップを図りたいと思います。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

市民活動推進センター
 野矢のまちづくり
 特別開催

市民活動推進フォーラム

●京都市域再生プロジェクト支援事業 ●亀岡市支えあいまちづくり協働支援事業

「協働が進める市民活動」

市民活動の活性化には、他の団体や事業者、行政などの協働が大切です。

内容 ①基調講演『協働が進める市民活動』13:40～14:30

一つの個人、グループ、NPO の力 それぞれに限界がある。行政も企業も限界がある。それぞれが地域のために活動していても、互いに足りないところ、持っているけど使っていないところがある。一つの力は不足しているが、協働することで活かしていける。一人で出来ないことが一緒にやれば実現できる。

講師：新川 達郎さん（同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授）

②ワークショップ 14:40～16:30

『各グループの弱み・強みをマッチングで活かしていくには・・・?!』
 一般市民、NPO 団体、議員団、学生、行政等のグループに分かれて、意見交換！

コーディネーター：坂本 信雄さん（京都学園大学名誉教授）

日時 平成28年10月15日(土) 13:30～16:30

場所 亀岡市役所：1階市民ホール（〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地）

費用 無料（どなたでも参加できます） **定員** 80名（要申込み / 先着順）

申込 下記に、お問合せいただくか、裏面のFAX申込書を返信ください **締切** 平成28年10月7日(金)迄

お問い合わせ


かめおか市民活動推進センター

開所日時：火曜日～土曜日 午前9時～午後4時

〒621-0806 亀岡市余部町宝久保1-1ガレリアかめおか3階

事務局

管理運営団体
 特定非営利活動法人

休所日：日・祝日 月曜日・第4木曜日と年末年始

http://kskc.org かもおか市民活動 [電話] office@kskc.org

みんなのネットワーク



0777-29-270

講師：新川達郎さん（同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授）

グループの弱み・強みを
 マッチングで活かしていく



第1回 NPO基礎講座 トークセッション

「NPO×ソーシャルビジネス」

地域の課題解決を目指すという観点でNPOとソーシャルビジネスは共通しています。NPOサイドからすれば子育て、高齢化などについて事業的な取り組みを通じて、他方、ソーシャルビジネスサイドはよりいっそうビジネス手法に基づいて事業展開を図っています。両者が抱えている課題などを含めてトークの選上に載せることにします。

平成28年4月23日(土) 13:30~15:30

場 所 ガリアかめおか2F 和室研修室

参加費 無料

15:30~16:00
交流会もあります!

講座の対象 どなたでも参加できます

定 員 50名(要申し込み)

申込み方法 4月19日(火)までに下記問合せ先へご連絡ください。

ゲストスピーカー:

カッパ研究会

2001年9月に設立した、水が好きな人が参加しているボランティア団体

<http://kappa-kyoto.net/towa01.html>

ひとつのおさら

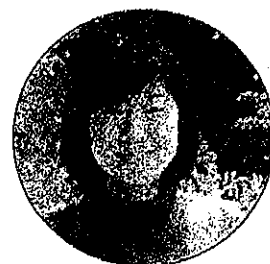
季節とつくり手がみえるおぼんざい食堂

<http://www.losara.com/>



カッパ研究会世話人

鈴木康久さん



ひとつのおさら代表

西村和代さん

モデレーター: 坂本 信雄 (京都学園大学名誉教授)

今後のNPO基礎講座: できるだけ連続して受講してくださいね!

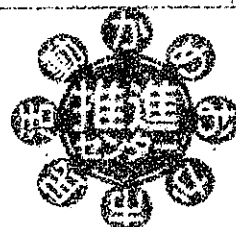
第2回: NPOへの期待は? 平成28年 7月30日

第3回: NPOの最前線を探ってみよう 平成28年12月 3日

お申込み・お問い合わせ先: かめおか市民活動推進センター事務局

(管理運営団体: 特定非営利活動法人 みんなのネットワーク)

TEL/FAX: 0771-29-2703 Email: office@ksksc.org



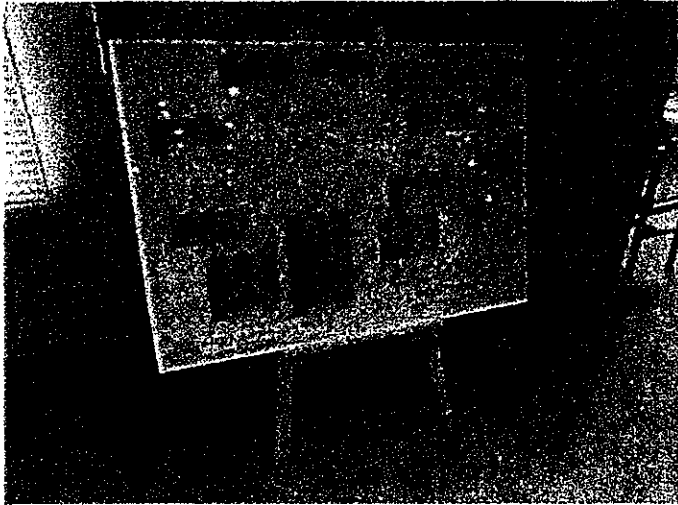
事業報告書

団体名：NPO 法人チョロギ村

1. メニュー名	(3) 市民連携事業
2. 事業名	砥石による都会の人との交流事業
3. 実施個所	亀岡市宮前町神前地内
4. 実施期間	平成28年7月8日～平成29年3月31日
5. 実施内容	<p>28年度は、次のことを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市交流会館内に天然砥石コーナーをプレオープン、10月22、23日にオープニングイベントを実施した。 ・ 神前及び大内地区の砥石採掘坑跡、神前地区の加工場を調査した（聞き取り調査を含む。）。 ・ 両地区の地層・地質の文献調査を行い、砥石採掘坑跡を地図上にプロットした一目で分かるパネルを作成した。更に、これを天然砥石コーナーに展示して来館者に観てもらうようにした。 ・ 神前地区が、日本でも有数の砥石の産地であったことを後世に伝えるため、神前地区の採掘坑跡、加工場及び火薬庫あとを記したマップを作成した。「神前の里巡り」の砥石コースで使用することとする。 ・ 質の高いことで有名な「岡花産の砥石」採掘坑跡への案内看板と標識を作成し、設置した。 ・ 砥石採掘に使用した道具を元採掘者から借り受け、天然砥石コーナーに展示して、後世に伝えることとした。
6. 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天然砥石コーナーのオープニングイベントでは、2千人もの来館者があった。 ・ 日本でも有数の砥石の産地であったことを、未来に伝えるための展示ができた。 ・ 調査に協力いただいた人に、大変感謝された。 ・ 神前地区の砥石のマップや看板・標識が作成できたので、「神前の里巡り」を通じて都会の人との交流が図れるようになった。
7. 協働の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砥石は宮前町及び東本梅町の特産物だったので、両方の調査ができた。 ・ 天然砥石コーナーに展示する砥石関係資料を広く・深く取

	集することができた。
8. 今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・天然砥石コーナーに多くの方々が訪れてくれるように、展示やイベントを工夫する。 ・「神前の里巡り」の砥石コースを稼働させ、神前地区民がガイドして都会の人との交流を図る。

(1) 亀岡市交流会館周辺の砥石採掘坑パネル



区域	砥石の種類	採掘坑の通称
神前	合砥	橋谷
北部		橋谷

区域	砥石の種類	採掘坑の通称
神前	合砥	橋谷
北山	合砥	橋谷

区域	砥石の種類	採掘坑の通称
神前	合砥	なし
中部	合砥	橋谷

区域	砥石の種類	採掘坑の通称
神前	合砥	なし
南西部	合砥	橋谷

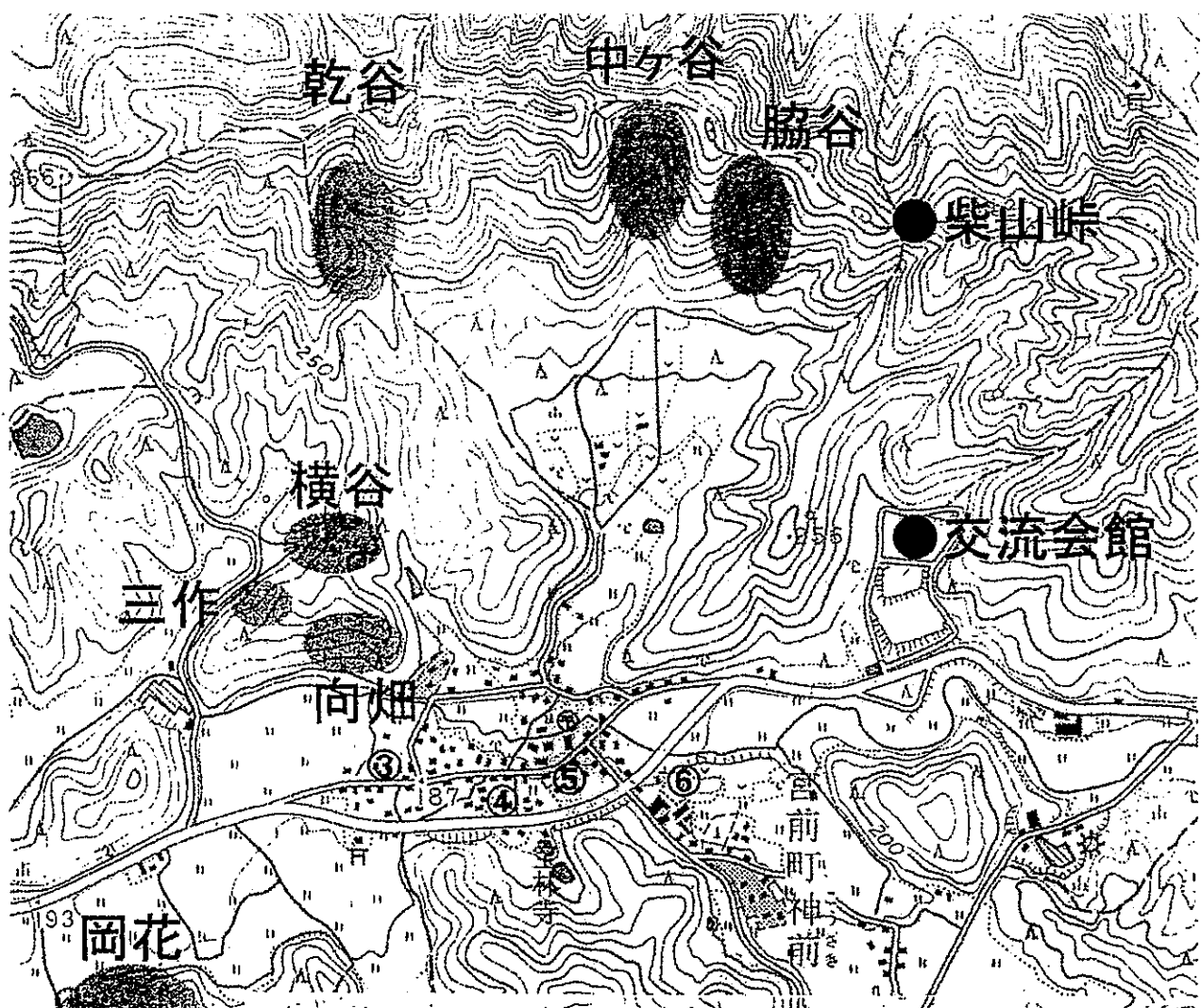


神前の 砥石マップ

特定非営利活動法人
チョロギ村

〒621-0242
亀岡市宮前町神前千見1番地の1
TEL&FAX 0771-26-5593

<https://chorogimura.com/>



採掘坑	乾谷 中ヶ谷 脇谷 三作 横谷 向畑 大末 土器 岡花
加工場	①土器 ②岡花 ③障子26 ④狭間3 ⑤狭間40 ⑥平見

事業報告書

アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	アユモドキの保全と京都サンガの応援事業
3. 実施場所	亀岡市内各所（街頭、市民体育館、競技場、資料館、自治会、市役所他）
4. 実施期間	平成 28 年 5 月 10 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。（日時、場所、参加者数、内容など）
<p>昨年度、公募により決定したロゴマークをいっそう普及するために、ネーミングとしての愛称を募集しました。募集の案内は亀岡市の広報誌「きらり」、京都新聞、みんなのネットワークのWEBなどを通じて7月1日から9月4日にかけて約2ヵ月余りでしたが、全国から74件の応募がありました。応募の締切り後、9月26日（月）に審査会を開催しました。審査員は保津町自治会長塚田 勇様、NPO 法人 ナルク亀岡（丹の里）事務局長西本 郁子様、生ごみでおいしい野菜と美しい花を育てる会代表田中 春美様、京都パープルサンガ ホームタウン推進部長鶴羽 健大様、亀岡市 まちづくり推進部長桂 政彦様の5名、他に事務局としてNPO 法人みんなのネットワークの関係者が出席しました。その結果、応募作品の中から「アユモドキーパー」を選びましたが、審査会ではより親しみやすい愛称とするため「くん」を敢えて追記することになり、正式名称として「アユモドキーパーくん」とすることを決定しました。なお、入賞作品として大阪府八尾市宮崎 英明様と神奈川県川崎市鈴木 律太様の応募が選ばれました。</p> <p>これに基づいてロゴマークのシールを作成し、これを関係団体、民間企業、行政機関などに重点的に配布することにより、「アユモドキーパーくん」の普及を図っており、多くの関係者から概ね好評を得ています。</p> <p>以上の事業の取組みに係わる参考資料を併せて添付致します。</p>	
6. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>「アユモドキーパーくん」は京都新聞などのメディア、そしてみんなのネットワークのWEB、さらにはシールの配布などを通じて広く市民に浸透しつつあり、多くの市民にとってアユモドキの価値感などが共有される機会になっているものと思われます。アユモドキの生息の保全は、すべての市民にとって共通の願望であり、サッカーチーム京都サンガの応援と共に確保されるべき課題であります。この事業を通じて、市民の参加意識・気運が高まり、自然環境保全や京都スタジアム（仮称）を核とした賑わいづくりなどに資することになっています。</p> <p>なお、「アユモドキーパーくん」のシールの配布はもっぱらPR用として作成したものであり、地元特産品の包装などへの活用への推進は今後の課題になっています。</p>	

7. 協働の効果	※市民連携事業・行政連携事業のみを記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。
----------	---

市民団体が単独でこの事業に取り組むよりも、行政側と連携して取り組むことにより事業の広範性を実現することができたほか、事業コストも節減することができました。事業の広範性としては、随所で行政側の関係部課から適切なアドバイスを経たことで事業の推進が円滑になったほか、広報上の協力などもありました。経費の節減に関しては、ロゴマークの愛称の募集段階のみならずロゴマークのシール配布においても市側の協力を得られたので、結果としてチラシなどの作成経費を計上せずに済んだこと、さらに市役所の会議室の利用などを含めて、結果として経費の節減につなげることができました。

8. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

希少生物「アユモドキ」の保全は生息地としてとりわけ取り組むべき課題であり、折しもこの度、市の魚として指定されたこともあって、その機運をいっそう高める段階にあるといえよう。その保全にむけた取組としての資金は行政ベースばかりでなく、民間ベースでも工夫されるべきであり、これを市民、さらには全国からの寄付を呼びかけることを検討したい。その1つの方法として動画の発信が考えられる。寄付の呼びかけは団体のWEBはもとより目下、検討されている(仮称)「亀岡基金」の枠内を利用することで地域の一体的な取組になりえよう。その際に「アユモドキーパーくん」はイメージキャラクターとして利用されるほか、やがてスタジアム来場者などを対象にしたグッズ販売を通じる寄付の確保につなげることが考えられます。

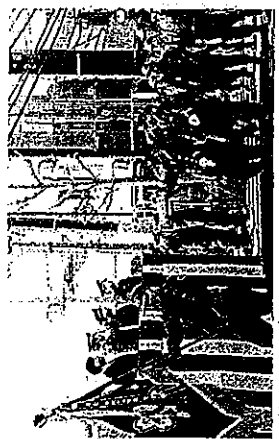
遊・You・かめまき

～ 1月のイベント情報～

皇岡市消防出初式 1月8日(日) 午前9時～11時30分

「火災ゼロ」への決意を新たにするため、皇岡市消防出初式を行います。

- 内容
 - 式典(皇岡中学校体育館)
 - パレード(市道相屋停車場線)
 - 一斉放水(南郷公園)
 - 問い合わせ
 - 自治防災課消防係 ☎22-0119



▲市中華パレードを行う消防団員(平成28年)

第2回皇岡市立病院健康講座

1月28日(日)
午後2時～3時

加齢による体の変化と予防について、看護検査・リハビリの視点からお話します。

- ところ 市立病院2階ウエルネスホール
- 定員 80人(先着順)
- 入場無料(申し込み不要)
- 問い合わせ 市立病院地域連携室 ☎25-7313(代表)



▲第1回講座の様子

●ハイ！広報広聴係です●

明けましておめでとございます。いつも「千里女電図」をご愛読いただきありがとうございます。今年も市内各地の話題や市政情報を皆さんにお届けするためスタッフ一同、一所懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。

今回は新春特別企画として、「私の好きな「朝霧」の風景」を掲載しました。雑業をしながら、自然が豊か皇岡盆地にもたらす現象が人々の生活を包み込み、ふるさとの原風景として大きな印象を残していることをあらためて感じました。

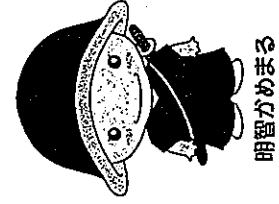
これまでマイナスイメージで語られることのあつた「朝霧」も、見方を変えれば魅力として捉えることができます。そして霧のあとには、抜けるような青空。これが皇岡の冬の朝です。このようにいつもこう思ふ者で、今年も色んなことチャレンジしていきたいと思ひます。

(小林)

広報ウイズ

霧の中に発生する太陽が複数あるように見える珍しい現象は何でしょうか。

ヒントは、広報紙の中にあります。
締切日 平成29年1月31日(火) (必着)

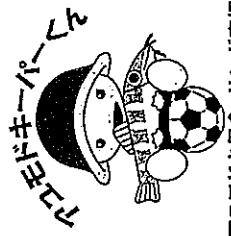


明ガガめまる

「アエモドキパーくん」をぶらうく!

「京都スタジアム(仮称)」の建設地である皇岡市において、希少生物アエモドキの確かな保全と京都サンガF.C.の応援に向けた取り組みを、「アエモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会」が進められています。

この取り組みの一環として、同委員会では、市民の皆さんや「京都スタジアム(仮称)」の来場者に愛さ



アエモドキ保全・サンガ応援

れるロゴマークと愛称を公募により決定。愛称の募集には、全国から74作品が寄せられました。同マーク上(図)の愛称となった「アエモドキパーくん」は、アエモドキを保全(キープ)すること、サッカーのイメージを重ねて応募された「アエモドキパー」に、親しみをもってもらうため、審議会において「くん」が付け加えられたものです。

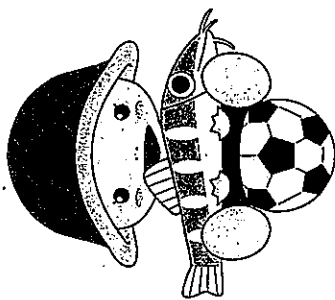
皆さんぜひ、「アエモドキパーくん」をアエモドキの保全と京都サンガF.C.応援のシンボルとして可愛がってください。

はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙「キラリ☆皇岡」の感想を書いて、〒621-8501(住所不要)市秘書広報課へ。
正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【前月の答え】

「イクボス」でした。

皆さんのおはがき、ありがとうございました。



▲公家の最優秀作品

愛称の募集をします！

「京都サンガF.C.」を応援すると共に、国の天然記念物、希少生物のアユモドキの確かな保全にむけ、寄付付きグッズを開発することになりました。このグッズに使用するロゴマークのデザインが公募により決定しました(左図)。このロゴマークについ

て親しみやすく、覚えやすい愛称を募集します。

応募先はガレリアかめおか3階 かめおか市民活動推進センター内特定非営利活動法人みんなのネットワーク「ロゴマークの愛称募集」係まで。応募締切は9月4日(日)《必着》となっています。

※応募方法など 詳しくはNPO法人みんなのネットワーク <http://www.ayumodoki-sanga.jp/> (☎070-6922-5132) へお問い合わせください。

アユモドキを守ろう！

亀岡の環境のシンボル



▲約60人が参加したアユモドキ救出活動

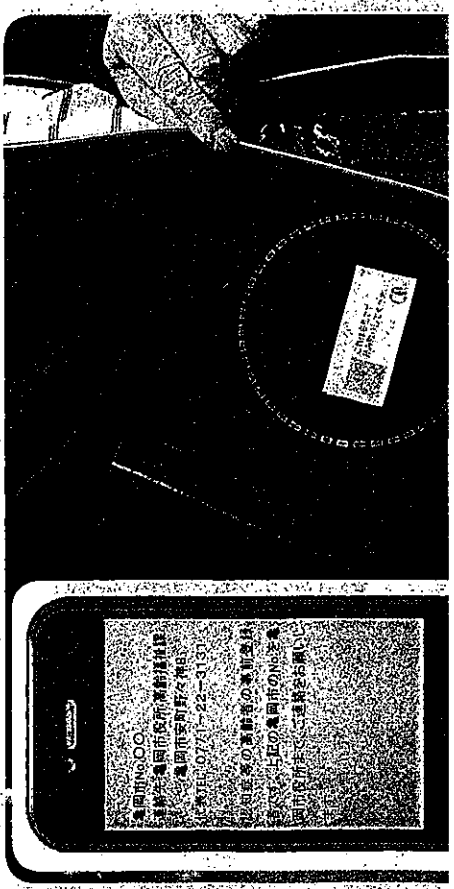
亀岡市には、国の天然記念物で絶滅危惧種に指定されている淡水魚「アユモドキ」の、全国でも数少ない生息域があります。

アユモドキは、川の増水をきっかけに一時的水域で産卵する習性があります。6月初旬に農業用の可動堰(ゴム製)が立ち上げられると、ダム上流で水位が上昇し、川岸の草木が水に浸かった場所で産卵します。一方、下流には自力で遡上できないアユモドキが取り残されるため、救出する活動を実施しています。

6月5日、地元の保津町自治会の皆さん、環境省、京都府、NPO、亀岡市などが協

働でこの救出活動を行いました。今年も、このアユモドキを保護。アユモドキは、繁殖のためにダム上流にはまだ、調査のみ偏りなく親魚を確認。良好な状態にあるものとあわせて、ダム上流を防止するためのロールを実施。生息する環境を知り啓発を行い、亀岡市ではアユモドキの調査、保護、生息域の保全に取り組ま

高齢者の皆さんの安全のために ～認知症等高齢者の事前登録受付中！～





「アユモドキーパーくん」

ロゴマークの愛称決定！！

ホームタウンとして京都サンガを応援したい！！
希少生物のアユモドキを応援したい！！

そんな思いのいっぱい詰まったイメージデザインを募集してるサイトです

2016年9月30日（金）までのロゴマーク愛称のご応募のお礼はこちら (naming-examination-index.html)

2016年9月4日（日）までのロゴマーク愛称募集のページはこちら (naming-index.html)

ロゴマークの愛称が決まりました

最優秀 「アユモドキーパーくん」

作品 ※2点の応募作品は「アユモドキーパー」でしたが、審査会ではより親しみやすい愛称とするため「くん」を敢えて追記することにしました。
なお、応募件数は74件と、多くの皆様からご応募頂きました。お礼を申し上げます。

入 選 大阪府八尾市 宮崎 英明様

者 神奈川県川崎市 鈴木 律太様

※同作品2名の受賞

作者か アユモドキを保全（キープ）するということと、サッカーの
らの イメージを重ねました。
言葉

審 査 2016年9月26日（月）に

会 アユモドキの保全と京都サンガの応援事業実行委員会にて厳正に審査しました。

ロゴマークの大きな画像はここをクリック



事業報告書

団体名：NPO 法人プロジェクト保津川

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	みんなで調べて学ぶ、亀岡の自然と文化
3. 実施場所	亀岡市内全域及び当団体事務所
4. 実施期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、情報など)

本事業では、「100年先も自然と共存していくまちづくり」をテーマに、それにつながる活動として、広く市民で自然環境調査を実施し、市内の現況を把握し、次世代を担う若者を中心として地域の自然資源の価値を確認しその保全策や利活用の議論を通じて、人材育成に取り組んだ

<ツバメ調査>

本調査は2016年6月～8月に実施した。結果、情報提供69名の方から396個の巣の情報が寄せられた。ここから重複を確認し、合計279ヶ所、389個の巣が確認された。亀岡市内で確認されたツバメは3種類であり、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの巣が見つかった。昨年度の調査ではヒナの数わかっている巣は21個に留まっていたが、今年度の調査では116個に増えた。市全体では一つの巣のヒナ数は3.97羽/巣(n=116)となった。なお、これは、巣立ち前のヒナまたは巣立ったヒナの数である。(公財)日本野鳥の会が2013年に実施した「ツバメの子育て状況調査」では、巣立ちヒナ数と都市化との関係を分析し、村落エリアでの巣立ちヒナ数が4.28羽に対し、都市部では3.87羽と都市では巣立ちヒナが少ないことが報告されている。また同調査では、巣立ちヒナ数は、首都圏での郊外では4.4羽、近郊で3.9羽、都心で3.5羽という結果が報告されている。亀岡のデータは3.97羽であり、都市近郊のデータに近いことがうかがえた。

なお、これらの結果をプリントに整理し、保育園、幼稚園、小中学校、図書館等にて配布を依頼した。また昨年度から2ヶ年実施した調査の結果報告書も作成した。

<河川ごみ調査>

本調査は全国川ごみネットワークとの協働により、全国調査「水辺のごみみつけ!」の調査用データカードを作成して実施したが、本年度は試行期間と位置づけ、大規模な調査は見送ったため、「川と海つながり共創プロジェクト」の事業として実施した(本支援金は使用せず)。調査では、市内在住及び南丹市内在住の親子を対象に募集し、保津峡における漂着ごみの状況を調べた。成果については、第3回川ごみサミット亀岡保津川会議(2017年3月4日、会場:京都学園大学)にて報告した。

<じぶん未来塾>

10月～3月の毎週木曜日に計18回開催し、のべ143人の受講者があった。本事業では、一連の調

査の結果などをもとに、100年先を見据えた亀岡のまちづくりや環境保全策、観光振興について、次世代育成事業「じぶん未来塾」において議論した。また、本事業では、フィールド調査の分析手法などについての講義も行い、データをもとにした議論のスキルの習得も目指した。さらに、一連の調査結果をもとに、亀岡のまちや自然が持つ魅力を広く海外に発信できる人材の育成を目指して、毎月末にはあっちこっちプロジェクトのマネバ・リョウ氏を招いて英会話教室「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」(計6回)や、亀岡のまちづくりに関する講演会「先輩に聞いてみよう！」(計7回)を開催し、高校生や大学生が社会人とともに学び合い、議論できる機会を提供した。

参加費：500円/回

毎月第2木曜日のあっちこっちプロジェクト English ワークショップは1,000円(教材費含む)

会場：プロジェクト保津川事務所会議室

スケジュール(木曜日が祝日等の場合及び年末年始は休講)

<2016年>

10/6(木)説明会

10/13(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [1]

10/20(木)亀岡の町を考える[1]

10/27(木)先輩に聞いてみよう! vol.1

「楽しいだけじゃない!記憶に残るイベントの秘密」

講師：二神麻里(イベント/コミュニティービルディングスペシャリスト)

11/10(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [2]

11/17(木)亀岡の町を考える[2]

11/24(木)先輩に聞いてみよう! vol.2

「駆けつける。そばにいる。～国際協力の現場から」

講師：原田早苗(公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO)シリア事業統括)

12/1(木)先輩に聞いてみよう! vol.3

「京の都の暮らしを支えてきた保津川水運の歴史と文化」

講師：豊田知八(保津川遊船企業組合代表理事)

12/8(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [3]

12/15(木)亀岡の町を考える[3]

12/22(木)世界じもと～くないと!

<2017年>

1/12(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [4]

1/19(木)亀岡の町を考える[4]

1/26(木)先輩に聞いてみよう! vol.4

「私のものづくり生活」

講師：西野康造(彫刻家)

2/2(木)先輩に聞いてみよう! vol.5

2/9(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [5]

2/16(木)亀岡の町を考える[5]

「外国人が見る亀岡の魅力は何か？そして、どう伝えるか・・・」

講師：ミシェル・リオング（亀岡市 国際交流員）

2/23（木）先輩に聞いてみよう！ vol.6

「若き鉄道員（ぼっぼや）たちが夢を語る」

講師：中村陽飛（JR 西日本二条駅）、井上美南（JR 西日本馬堀駅）

3/2（木）先輩に聞いてみよう！ vol.7

テーマ：「地域創生 成功の方程式はあるのか？ -できる化・見える化・しくみ化-」

講師：木村俊昭（東京農業大学教授・内閣官房シティマネージャー）

3/9（木）あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [6]

6. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

<ツバメ調査>

本調査では、7月以降、調査協力依頼のプリントを市内の全小中学校、幼稚園、保育園を通じて配布した。また、インターネット上でも調査協力者を募るとともに、新しい試みとして facebook の広告機能を活用して、調査の告知に務めた。特に、昨年度はデータの少なかった川東地区や、篠町などの新興住宅地エリアからも多数の情報が寄せられ、亀岡市内のツバメの営巣状況をより詳細に把握することができた。イワツバメについても営巣確認場所が1か所から6か所に増えた。近年は、糞害などによりツバメの営巣を嫌う家庭も増えているが、今回の調査では調査協力者の自宅のツバメの巣の報告が多くあり、その中には屋外ではなく室内に巣がある例や、ヘビやカラスに襲われないよう工夫されている人も少なくなかった。糞害については、NPO 法人バードリサーチ（東京）が、段ボール製のフン受けの普及に努め、全国の道の駅や鉄道の駅、高速道路のサービスエリア、一般の希望者などに配布するなどしており、今後、良好な生息環境の保全とあわせて本市でも「ツバメ“も”子育てしやすいまちづくり」の実現に向けた提言を行っていききたい。

さらに、報告書も市教委の協力のもと、市内全学校で配布することができた。

<河川ごみ調査>

小学生とその保護者を対象に実施した川ごみ調査の取り組みは、第3回川ごみサミット亀岡保津川会議などの場で報告され、全国的にも高い注目を集めた。また、安詳小学校では、5年生の「総合学習」において「海ごみ学習」が実施されており、その助言を行なっている。

<じぶん未来塾>

今年度の<じぶん未来塾>は、昨年度、亀岡みらいパース主催の「第3回亀岡ソーシャル大学 外国人観光客への本当の「おもてなし」とは・・・亀岡の観光未来図～これからの外国人観光客誘致（インバウンド）を考える！！」（2016年1月16日、ガレリア亀岡にて開催）に講師として参加されたマナベ・リョウ氏が京都市内で実施されている英会話教室「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」への関心が高かったことを踏まえて、亀岡でも毎月第2木曜日に開催することとした。また、この講座で講師を当団体の原田（大阪商業大学准教授）と豊田（保津川遊船理事長）も務め、同じく好評を得たことから、それを発展させる形で「先輩に聞いてみよう！」を開催した。この「先輩に聞いてみよう」では、多様なゲストスピーカーを招き貴重なお話を伺えただけではなく、聴講者も多様な人が

集まり、亀岡の町の魅力や課題について多くの人とともに考える良いきっかけとなった。

さらに、<ツバメ調査>の結果などを踏まえて亀岡の町の魅力について議論する<じぶん未来塾>の「亀岡の町を考える」講座では、前述の「あっちこっちプロジェクト English. ワークショップ」の成果を踏まえて、「私の大好きな亀岡」を英語で表現することにまでチャレンジできた。

一連の事業を通じて、これまでの当団体の主催する環境関連イベントとは異なる参加者層を開拓することができ、支援者の獲得に繋がったことも大きな成果であった。

7. 協働の効果	事業実施にあたって、他団体等と協働で実施された場合は、実施の効果や今後に向けての課題について、具体例などを交えながら具体的に記入してください。 ※市民連携事業に関わらず、他団体との協働があった場合は記入してください。
-----------------	---

<ツバメ調査>は当団体にとっても、初めての取り組みとなる一般公募型の市民参加型環境調査であり、SNS を活用した調査協力の呼びかけや、市内各学校・幼稚園・保育園などへのチラシ配布などを通じて、これまでアプローチが十分でなかった層への呼びかけを行うことができた。貴重なデータが多数集まり、またそれらを活用した事業を実施できたが、亀岡みらいパスで中心的な役割を担ってきた方の逝去などもあり、今後の事業の継続には、当団体の基盤強化など協力体制の再構築が課題となっている。

また、<河川ごみ調査>については、全国調査「水辺のごみみつけ！」の準備の遅れもあり、今年度は試行的な調査にとどまったが、次年度はぜひ市内全域での調査を実施したい。<じぶん未来塾>については、参加者から大変好評をいただいただけでなく、「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」や「先輩に聞いてみよう！」を通じて、多様な個人・団体とのつながりが生まれた事業であったが、当団体の現在の体制では職員の負担も大きいため、今後、まちづくりに関心のある若年層との連携など、新たなあり方を検討している。

8. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
-----------------	--

本事業で取り組んだ 2 つの環境調査は、いずれも市民参加型の手法をとっており、広範なデータを集められる反面、特に<ツバメ調査>では GIS データの入力など、スタッフにある程度の IT スキルを要するものである。今後は、スマートフォンのさらなる活用や Web アンケートの手法を採用するなどともにデータ入力ボランティア等を募るなどして、事務局スタッフの負担を軽減し、継続的な調査の実施につなげたい。

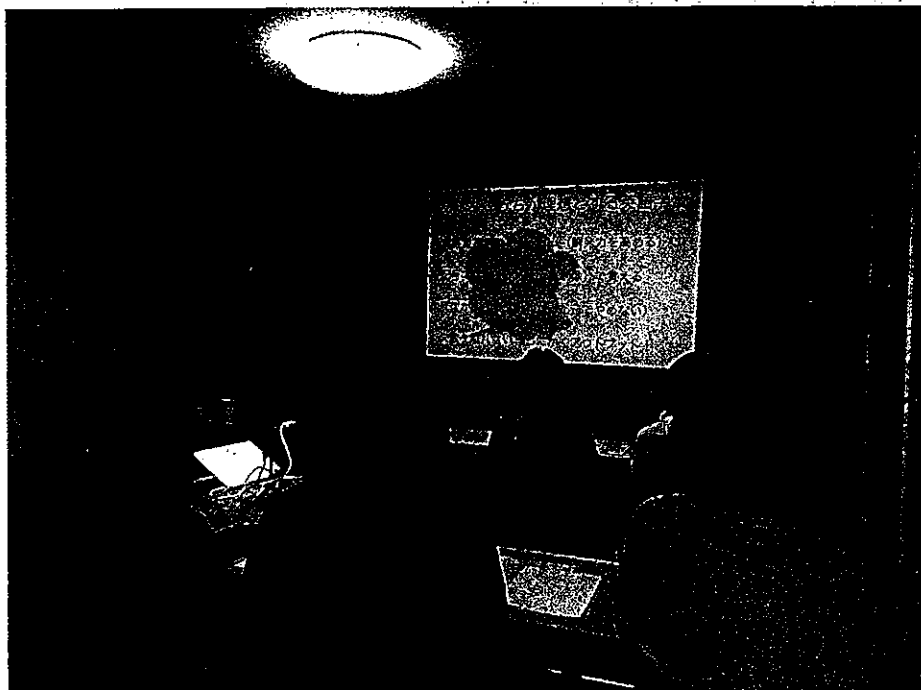
また、今後の継続的な事業の実施にあたっては、自主財源の充実のほか、民間の助成金などにも積極的に応募するとともに、全国の同様の取り組みを進める団体との交流を通じて、より効果的な調査手法の開発に引き続き努める。また、<じぶん未来塾>事業を通じて、これまでになかった新たな支援者を獲得することができ、今後の調査活動や環境保護活動の実施に当たっても連携を深めたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

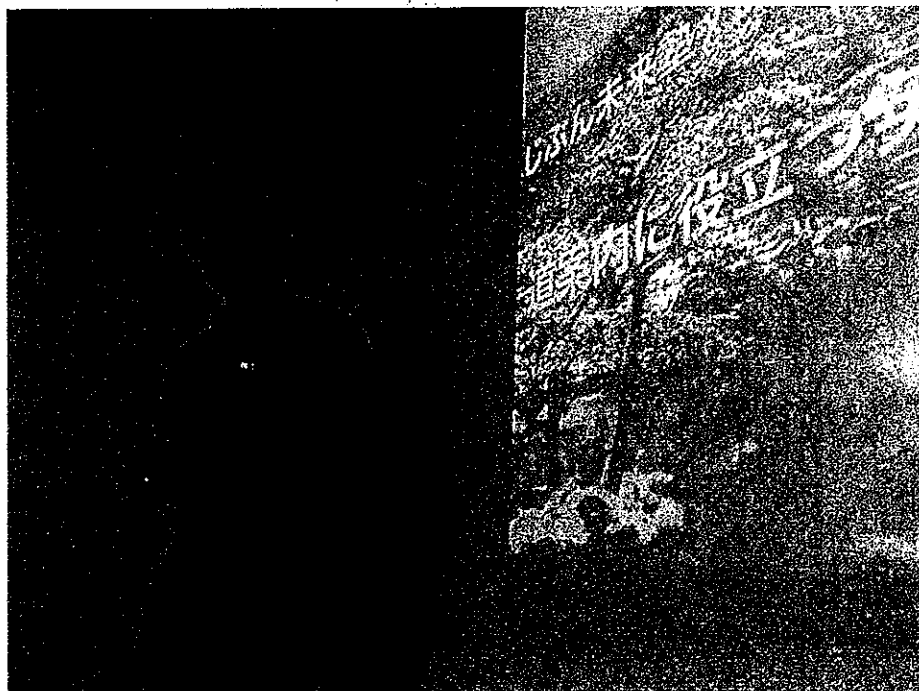
※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

じぶん未来塾 講義風景

あっちこっちプロジェクト English ワークショップの講師 マナベ・リョウ氏



こっちプロジェクト English ワークショップ 講師のアリヨ氏



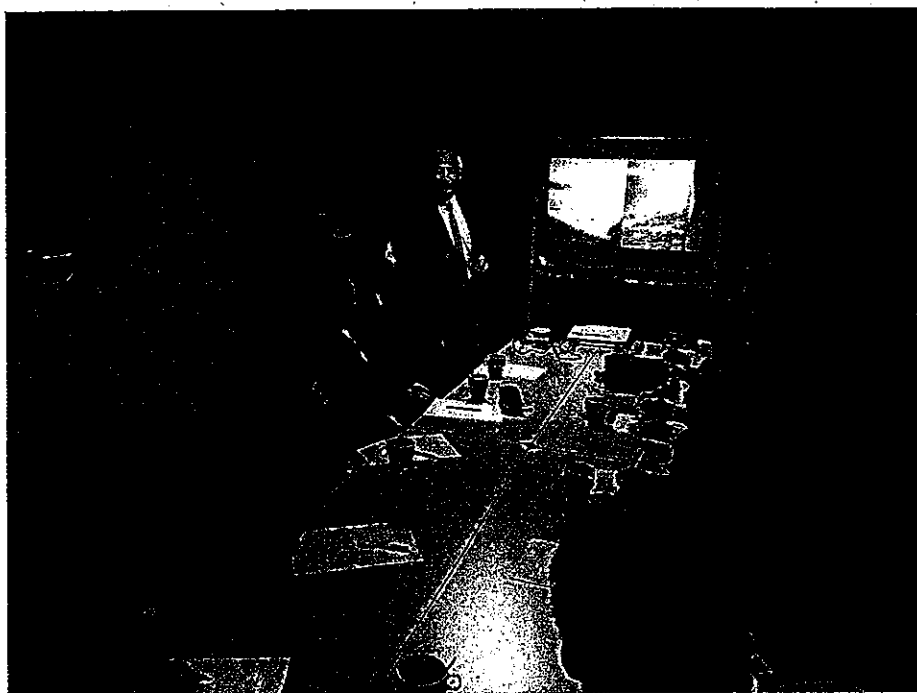
10/27 先輩に聞いてみよう！ 二神麻里氏の講演



11/24 先輩に聞いてみよう！ 原田早苗氏の講演後、ヨルダンのシリア難民女性が制作した刺繍を見学した。



12/1 先輩に聞いてみよう！ 豊田知八氏の講演



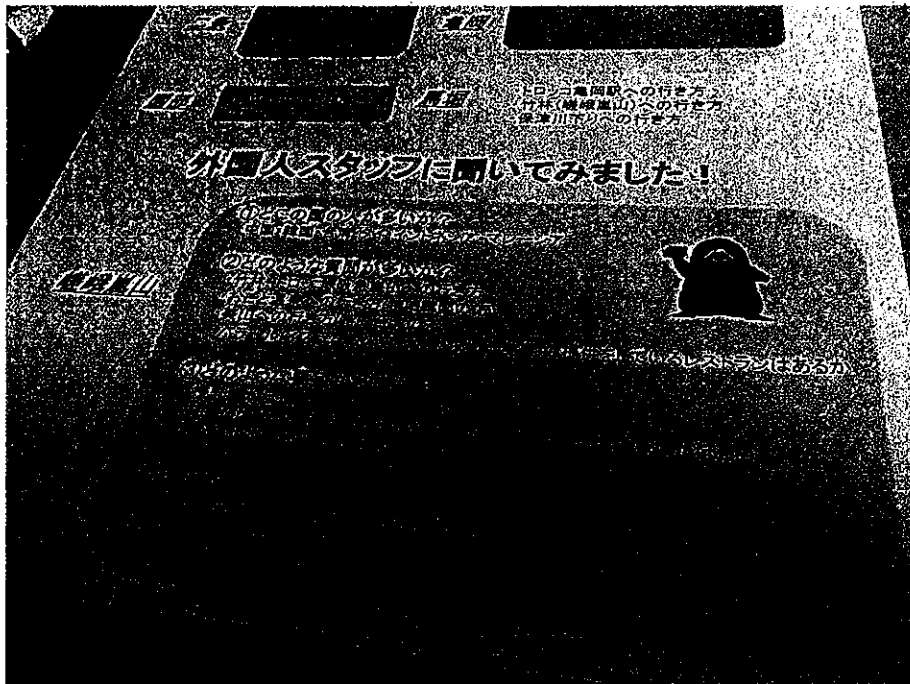
12/15 亀岡の町を考える 講義風景



1/26 先輩に聞いてみよう！ 西野康造氏の講演



2/23 先輩に聞いてみよう！ JR 職員の皆さんによるプレゼン資料



3/2 先輩に聞いてみよう！ 木村俊昭氏の講演



3/2、先輩に聞いてみよう 木村俊昭氏との記念撮影



第3種郵便物認可

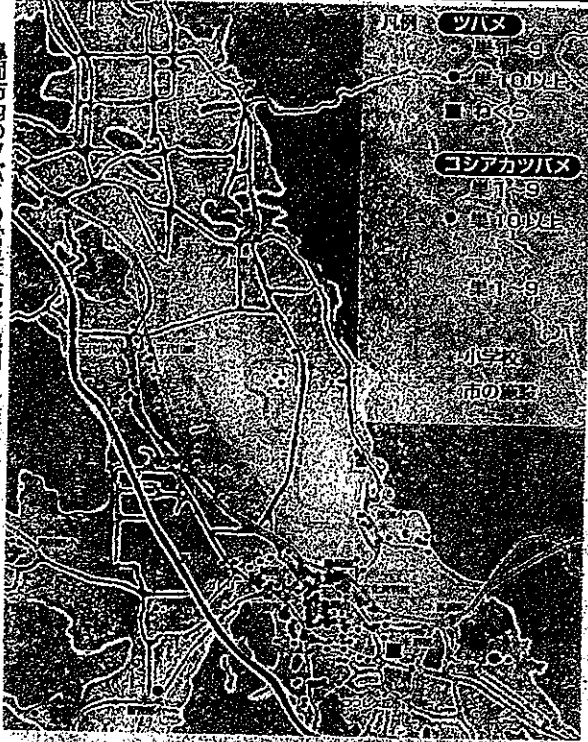
京

亀岡ツバメの巣526確認

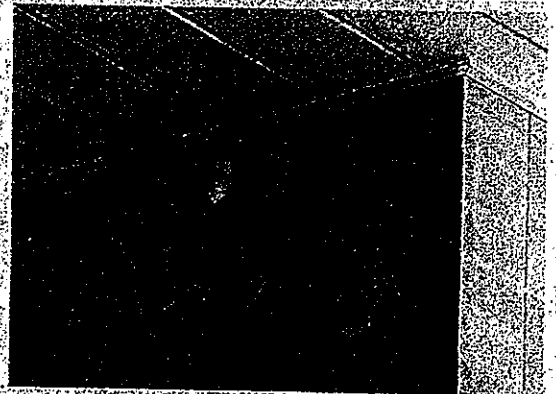
亀岡市の市民団体「亀岡みらいパス」は昨年6～8月に市内で初めて実施したツバメの営巣調査の結果をまとめた。市民から計5つの巣の情報が寄せられ、2カ所のねぐらが確認された。巣は平野部の住宅や公共施設などが多かった。結果をまとめたパンフレットを、市内の公共施設などで配布している。

確認された巣はツバメ356、コシアカツバメ150、イトツバメ20だった。このうち旧城下町にあたる電岡地区中部が97、同東部97、同西部35の順に多かった。

亀岡市内のツバメの営巣状況を地図と数字で伝えるパンフレットの1部



亀岡市内に営巣したツバメ (2015年5月)



昨年6～8月、市民団体調査

新興住宅より城下町好む？

一方、新興住宅地のつじが丘の地区は計7と少なかった。ツバメは平野部の住宅、コシアカツバメは行政機関の庁舎や学校など、公共施設で多く確認された。

亀岡みらいパスによると、多かった地区は巣の材料となる泥や餌の虫がとれる永田や河川敷に近かった。新興住宅地が少ない理由は、新建材の外壁は泥がつかない可能性があるという。

今年も調査を予定しており、昨年の結果を比較してデータを蓄積する。調査に協力した元日本野鳥の会京都支部長の八木昭さん(大井町)によると、篠町の住宅街にある5千羽規模の大規模なねぐらが近隣住民以外の人たちにも広く知られるようになったという。調査を通じて多くの市民が、身近なツバメに関心を深めた意義は大きい」と話している。(秋元太一)